

倉吉総合看護専門学校 学校自己評価

●学校評価の必要性

平成 23 年 3 月 29 日付で「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の一部改正が行われ、「第 8 管理及び維持経営に関する事項」において『養成所は、教育活動その他の養成所の運営状況について、自ら評価を行い、その結果を公表すること』と明記されました。当校では平成 24 年度から学校自己評価に取り組んでいます。

●実施計画

当校における学校自己評価は、「授業評価」と「学校運営評価」に大別します。

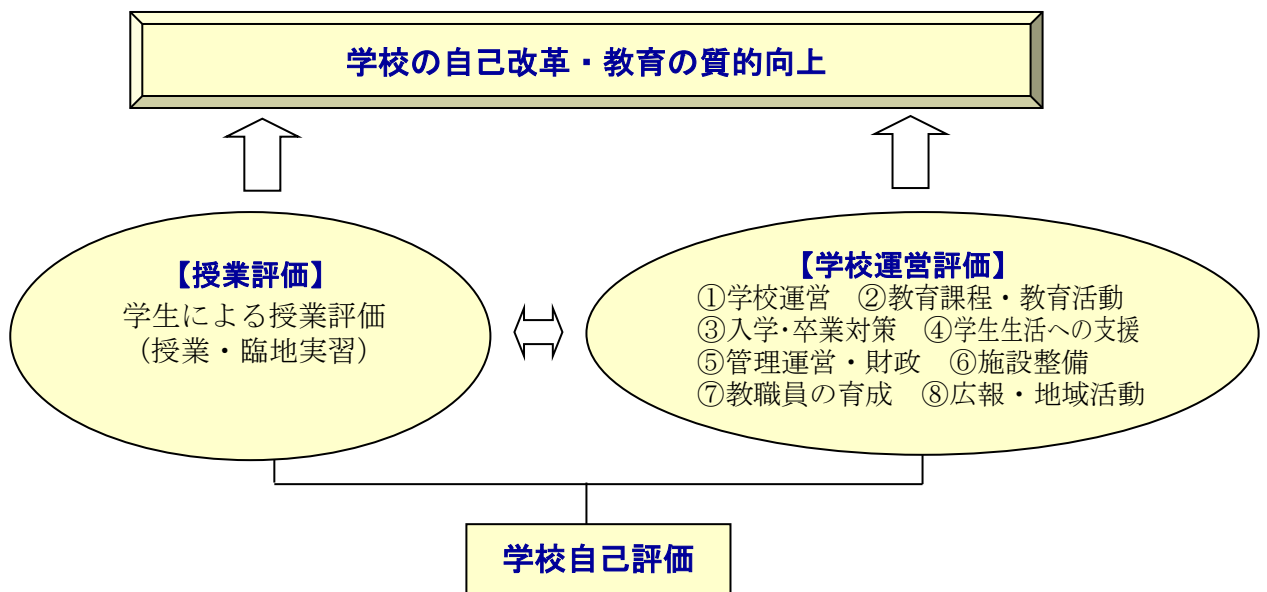
◆「授業評価(学科毎)」

授業評価は、学生からのアンケート結果と教員の自己評価を基に、授業の進め方、教材の改善策等を検討し、教育の質的向上に活かします。

◆「学校運営評価」

学校運営評価は、学校経営、教育課程・教育活動、入学・卒業対策、学生生活への支援、管理運営・財政等の項目を設定し、教職員等が評価を行い、学校運営委員会において検討し、学校運営の改善・改革を目指します。

1 当校における学校評価の枠組み



2 組織構成

学校自己評価委員会を設置し、学校運営や教育活動等の状況について、自己点検・自己評価を行い、学校運営委員会に改善事項などの意見を提出します。

構成員：校長、副校長、教務課長、総務課長、教務主幹、教務主任、講師、事務職員
その他校長が必要と認めた者

3 結果の公表

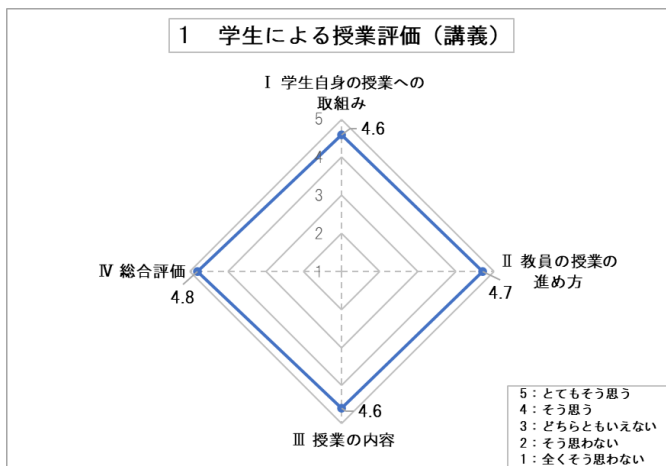
授業評価及び学校評価の実施結果を当校ホームページで公表します。

令和6年度 学校自己評価結果

1. 学生による授業評価（講義）：専任教員担当60科目 1,725時間対象

評価尺度(5段階)：5 とてもそう思う 4 そう思う 3 どちらともいえない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

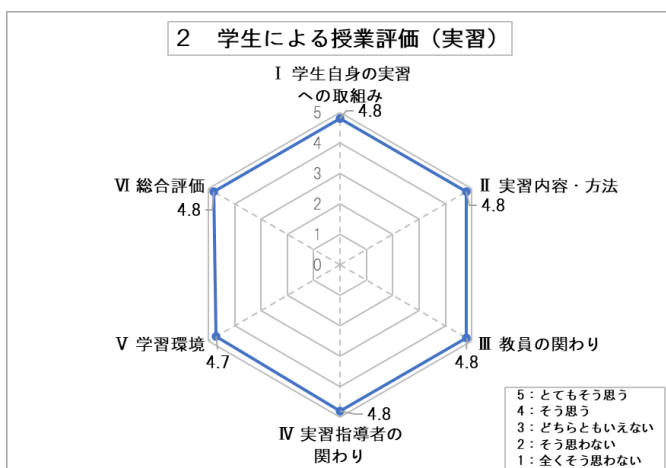
評価項目	平均点
I 学生自身の授業への取組み	4.6
II 教員の授業の進め方	4.7
III 授業の内容	4.6
IV 総合評価	4.8



2. 学生による授業評価（実習）：7領域 11科目

評価尺度(5段階)：5 とてもそう思う 4 そう思う 3 どちらともいえない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

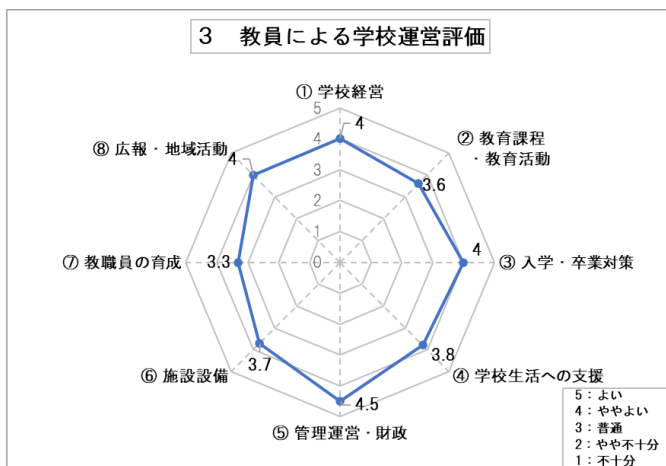
評価項目	平均点
I 学生自身の実習の取組み	4.8
II 実習内容・方法	4.8
III 教員の関わり	4.8
IV 実習指導者の関わり	4.8
V 学習環境	4.7
VI 総合評価	4.8



3. 教員による学校運営評価：8項目

評価尺度(5段階)：5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分

評価項目	平均点
① 学校経営	4
② 教育課程・教育活動	3.6
③ 入学・卒業対策	4
④ 学校生活への支援	3.8
⑤ 管理運営・財政	4.5
⑥ 施設設備	3.7
⑦ 教職員の育成	3.3
⑧ 広報・地域活動	4



令和6年度 鳥取県立倉吉総合看護専門学校 自己評価結果

令和7年8月

項目 平均得点	概 要	評価委員会での改善提案及び今後の課題
①学校経営 4.0	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響（特に実習）を考慮し、年度当初に保護者に対しても感染症対策への協力を文書で依頼した。学生及び教職員が学校内外（寮含む）において感染症予防対策に取り組み、各学科とも進級・卒業に至った。 ○教務主任会や職員会、クラスミーティングに加え、教務主幹会及び各科主任会も適宜開催し、タイムリーな協議を重ねながら円滑な学校運営に繋がった。 ○授業評価及び学校自己評価を実施し、学校関係者評価委員会にて今後の課題等の検討を行なった。学校評価の結果は、ホームページを通じて公表した。 ○講師（正職員）の退職に伴い、会計年度任用職員1名の確保はできたが、適所の人材配置のためには人員補充は必要であり、教員確保は継続した課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じかつタイムリーな会議で協議を重ね学校経営を行っており、評価できる。 ・教員確保が困難な現状を踏まえ、卒業時に「キャリアの選択のひとつとして教員への道」を紹介する等も有用か。
②教育課程・教育活動 3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○第1看護学科が新カリキュラム3年目であった。地域・在宅看護論実習Ⅱ（初めての実習）も、実習施設の選択及び調整を行い滞りなく実施できた。 ○養成する看護師・助産師が卒業時において持つべき資質をシラバスに明示し、卒業前には学生にアンケートを実施して状況把握及び結果の分析を行った。また、新カリキュラムに関するアンケート結果と併せて、時代の変化や要請を踏まえつつ授業内容を見直し、シラバスの修正等を行った。 ○未履修科目がある学生については原因分析を教員側と学生側で実施し、対応策を講じているが、十分ではないところも散見された。 ○第1看護学科は、今年度の入学生より電子テキストを導入したことに伴い、デジタルツールを活用した教育活動を一部実施し、DX化に向けてさらに検討を進めた。助産学科は、実習前に事例やシミュレーターを活用して臨床場面に近い演習の工夫を行い、学生からの反応は良好であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業生（新人含）は病院内でも評価が高く、社会人基礎力が身につけている（人も多い）印象である。」と称賛された。糧として更なる教育の充実に努める。 ・未履修科目がある学生への対応を再度見直し、指導の徹底を図る。
③入学・卒業対策 4.0	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスを土曜日に開催したところ、参加者は146名（内保護者34名）であり、昨年との2倍であった。終了後のアンケート結果は概ね良好であった。 ○県内外の高等学校、看護師・准看護師養成施設等に対して学校訪問や郵送による学校PR・入試情報の提供を行った。また、‘学生定数の確保’を念頭に各入試要領の見直し（1看は社会人入試の導入、助産は推薦入試要件の変更）を行うと共に、西部の高校への進路ガイダンスを積極的に行った。第2看護学科は准看護師へのアンケート調査を行い、結果を踏まえて入学時の必要経費の見直しを行い公表した。また、入試情報を県政だよりと日本海新聞に掲載した。 ○国試合格に向けて、年度計画に基づいた国家試験対策と模試結果に基づく個別指導を実施し、国家試験の合格率は、看護学科は100%、助産学科は93.7%であった。 ○県内出身者の県内就職率は95.6%であった。県内の就職ガイダンスへは、低学年から参加勧奨を行い、当該年度求人案内と就職募集要項一覧を作成し、学生が常時閲覧できるように図書室に設置した。また、学生が毎朝訪室する部屋に、就職情報や卒業生からのメッセージを掲示し情報提供の工夫をした。既卒者の相談（就業や研究等）には随時対応しているが、就業先については卒業時の把握のみである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの休日開催の効果は大きく、継続が望ましい。 ・様々なPR活動を行った結果、定員確保に至ったことは評価できる。 ・受験の経緯等を入学生に聞き取りした結果、口コミの重要性が示唆された。引き続き真摯に学校運営に取り組む。 ・卒業生の動向調査は必要（県外就職者もキャリアを積んでUターンしている可能性あり）。
④学生生活への支援 3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○定期面談の結果を教員間で情報共有した。また、必要時スクールカウンセラーに繋げて（相談学生数、総時間は前年度より増加）、支援の方法を助言してもらった等の対応を行った。タイムリーな支援により学習継続に繋がった学生もいた。 ○修学支援新制度の機関要件を県に申請し、今年度も更新が認められた。授業料減免と給付型の奨学金を活用した学習継続への支援に繋げることができた。 ○進学・就職支援では、最高学年には4月に選考対策講座を、第1看護学科2年生に対しては冬季に就活に向けた病院の選び方講座を実施した。また、自己理解を深めるためのジョブカードセミナーも行き、学生からの反応は良好であった。 ○学生サークル活動に対して、担当教員の配置や後援会からの活動費を助成した。学生の要請を受け、活動時間の延長等規則の改正も行き活動しやすい環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーと連携を図り、その支援が学習継続に繋がっており評価できる。 ・有意義な学生生活の一助となるような学生サークル活動に向けて、更なる支援を学生と共に検討する。そして、学校PRへと繋げる。

<p>⑤管理運営・ 財政 4.5</p>	<p>○毎月の執行額を確認し年次計画に基づき計画的に事業執行できた。 ○個人情報保護方針、個人情報保護取扱い規定は学生便覧に掲載している。また、実習前には指針や規定の内容を再確認する時間を設け、学生は個人情報保護に関する誓約書に署名している。Instagram運用にあたり学生から同意書をとった。 ○学生の個人情報のファイルは、教務室内の鍵付きキャビネットに保管管理している。また、実習記録は鍵付きロッカー（鍵は教務室で管理）に保管している。 ○感染症対応マニュアルなど各種マニュアルは見直しをしている。 ○前年度の防災訓練の際の気づきを受けて、防火保管庫を購入した。 ○前年度の交通安全に加え、今年度はニュースを賑わしている闇バイトの講話を倉吉警察署に依頼し、全校生徒及び教職員が受講した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理や感染症対策など適切な運用で評価できる。と同時に、それらを学生の内から意識づけすることは重要である。 ・闇バイトなど時代に即した研修は、引き続き積極的に取り入れていってほしい。
<p>⑥施設設備 3.7</p>	<p>○教育目標達成のために必要な教材、看護師・助産師養成所の運営に関するガイドラインに示されている機械器具、模型等は整備を行った。 ○本館棟・サービス等の外壁工事、正面門扉のパイプ改修、消防設備及び防火扉改修、屋外キュービクル補修、駐輪場の撤去などを行った。「鳥取県中長期保全計画」に基づき実施するのに加え、定期点検での不具合が指摘されたものは随時対応した。 ○今年度の第1看護学科入学生から電子テキスト使用するにあたり、講師用 iPad の購入や Wi-Fi 環境を整え、スムーズに授業が開始できた。 ○年間4回の図書整備を実施（学生と共に）し、不明図書を含め学生の利用頻度の高い書籍を中心に次年度の予算要求を行い、更新した。 ○栄養実習室に学生が安価で購入できる自動販売機を設置している。麦茶や水など売り切れになる頻度が高い商品の販売個数を増やしてもらった。栄養実習室の学生利用については、コロナ禍で制限（昼食摂取など）していたが状況を見ながら拡大した結果、学年を越えた交流の場となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の修繕や教材備品の購入を計画的に行い、安心して学べる環境を整えている。 ・Wi-Fi 環境や栄養実習室の整備など、ニードと制約を踏まえながら施設整備を行っており評価できる。学生同士の繋がりのためにも、栄養実習室や自治会室の有効活用を学生と共に考えていく。
<p>⑦教職員の育成 3.3</p>	<p>○教員研修（「看護実践を支える社会人基礎力」「臨床判断の育成」「障害のある看護学生が学び働く環境づくり」）を全教員がオンラインで聴講した。教員が公費で参加した研修会は11回延べ人数16名であった。教員研修も含めてすべて復命を回覧した。年度末には研修報告会（伝達講習会）を実施し、質疑応答の場も設けて更なる情報共有を図った。 ○専任教員のキャリア別達成目標は教員の手引きに提示している。 ○年度当初に、担当科目に関する授業への積極的な参加を勧奨した。計画的な学内授業の参観や授業研究の参加及び評価できるような仕組みはないが、他の教員の授業参観により、学生の学びの共有と同時に自身の教授活動を見直すことに繋がった。 ○授業内容や方法について、事前に担当教員間で検討しながら講義や演習を行っている。特に演習では複数の教員が学生に関わりリフレクションを通して次年度の課題などを見出した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平均点は年次上昇しており、努力は何える。 ・自身の課題を明確にし、引き続き積極的な研修会の参加や授業参観により研鑽を積む。 ・伝達講習の仕方については、情報共有の場とするだけでなく、その後の経過も確認できる体制を整えていく。
<p>⑧広報・地域活動 4.0</p>	<p>○Instagramを6月に開設し、ホームページと併せて学校生活の様子など行事を中心にタイムリーな掲載に努めた。Instagramのフォロワー数は140程度（令和7年3月現在）、1回の投稿閲覧数は300～500回、ホームページの閲覧数は33,760回/年（前年度より1万件増加）であった。 ○広報誌などへ学校紹介を掲載した。また、学校広報の一環として、学校名の入ったクリアファイルや付箋、ペットボトル（水）を作成し、オープンキャンパスや進路ガイダンスの参加者に配布した。 ○看護学科の学生は、ボランティアによる地域貢献活動を、助産学科の学生は地域で子育て中の母親や妊婦とその家族を対象とした健康教育の実施など、講義や実習を通じた地域貢献活動を行った。また、教員は実習施設の院内研修及び看護研究指導、鳥取県看護職員実習指導者養成講習会等への講師を通じて、実習指導者育成や実習施設の看護の質の向上に寄与した。今年度は、県教育委員会の依頼を受けた倉吉東中との交流（CHA³プログラム）に向けて実施計画を進めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動が拡大しており評価できる。 ・授業だけではなく、自治会の活動として地域貢献活動が学生主体となって行われるよう教員はサポートする。（学校全体で取り組む） ・Instagramやホームページの更なる充実を図る。

※評価項目の点数は、5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分 の総数を項目数で除した点数